総合評価

評価の観点	評価・課題・改善に向けて	評価委員講評
食育	・日々子どもが苦手なものを食べられたことをよく伝えているが、食育についての取り組みとは感じてもらえていないのではないか。ガーデンでの野菜の栽培や収穫、調理してもらい昼食で食べていることなどを、もっと知らせていくようにしたい。	・子どもが生活と遊びの中で食に関わる体験を積み重ね、食べる楽しみは勿論のこと、園での食事を通して適切な援助の下で様々なことを学んでいる。年長児の保育参観で、子どもが親に食事を取り分けてやる姿に子どもの成長を見ることができた。 ・調理する人への感謝の気持ちを表すために、園児と調理員との関わりの場を作る。 ・多様な状況の中にある園児一人一人の状態に応じ、適切に対応している。
連携（保護者・地域・小学校）	・0・1・2歳児保護者「子どもの様子について情報交換しているか」について「あまりそう思わない」が2．6％（1名）なのは、もっと知らせて欲しいと思われているのかもしれない。連絡帳に写真を貼ったり、マップで知らせたりした保護者からはほとんど高い評価をもらっているのではないか。保護者が安心して子どもを園に通わせられるように、遊びの様子、育ちなどをより伝えていくようにしたい。 ・3・4・5歳児保護者で「保育が見えるよう努めているか」について「ややそう思う」が28．9％、「わからない」が2．6％。0・1・2歳児クラスは連絡帳とマップ、クラスだよりによく写真を貼るが、3・4・5歳児クラスはその機会が少なく、またウェブマップを階段に貼っているので説明も難しい。またウェブマップの取り組みに対して保護者の「10の姿」の評価もそれほど高いものではない。これは保護者への分かりやすい説明が足りていないからではないか。ウェブマップではスペースが限られるので、以前使っていたスケッチブックに分かりやすい吹き出しを付けて「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」がどんなことか具体的な説明をし、送迎時に保護者に見てもらうのはどうか。	・小学校や地域との様々な交流はスムーズである。乳幼児期から更に小学校へ繋がる成長の階段こそ大切。具体的に組織化し、10の姿の道筋などを共有しながら円滑な接続を図りたい。ウェブマップが広がるということは、日々の保育が点ではなく繋がっているということであり、遊びが繋がっていくように保育者が努力しているということ、また子どもに「明日は何をして遊ぼう」と考える力が育っているということでもある。送迎時や連絡帳で、ウェブマップに書いていることを裏付けるような保育者の説明があってこそウェブマップに書いていることが生きる。マップを立ち止まって見てくれている保護者には連絡帳などで関心を寄せてくれていることへの感謝と子どもの育ちを伝えていくようにするといいのではないか。 ・10の姿に書かれていることについて、育ってほしいと願うのは家庭もまた同じだろう。園の評価をすることで家庭の子育てを振り返る機会にしてもらうことが望ましく、家庭と園、地域が一緒に子育てをするための評価ということを理解してもらうようアンケートの意図を記載することで、回収率も上げていく。また、少数であってもCDEの意見に真摯に向き合うために、「CDEに〇の方はよければ理由をお書きください」というスペースを作り、自由記述してもらうようにする。 ・子育て支援に取り組んでいる施設がまだ少ないので、地域のパイオニアになって欲しい。子育てサポーター養成講座では、関わろうとする意欲がある人を育て、社会に還元していく。そのような社会的に意義のあることを地域で育てていくことは素晴らしい。

関係者評価委員会による評価を終えて

今年度より幼保連携型認定こども園に移行し、園評価とその公表が義務づけられたことから、保護者のご協力により保護者アンケート、加えて保育者のアンケートから評価及び改善への道を探った。また、関係者評価委員の皆様には高い評価を頂くと共に、さらなる向上のために、文書や口頭などで、忌憚のない多くのご意見、ご助言を頂いたことは大変ありがたく、有意義な時間を持てたことに感謝したい。また、関係者評価委員の方からの「園を評価することは家庭と園、地域が一緒に子育てをするための評価」の言葉を受け止めることに、このアンケート評価の意義があるのだと納得した。次年度はさらに「可視化」に力を注ぎ、園と家庭、地域が、幼児期の終わりまでに育って欲しい子どもの育ちの方向として、10の姿を共有し、一緒に進んでいけるよう精進したい。